

東員町長 殿		児童手当 認定請求書										* 不足書類 有 ・ 無 提出 年 月 日 （受付 日督促① □ 年 月 日督促② □ 年 月 日却下（却下期日 年 月 日） ・健康保険証(年金加入証明書) ・個人番号（請求者/配偶者） ・口座 ・別居監護申立書(児童の個人番号) ・同居優先(証明書類) ・その他（ ）										提出年月日		※受付確認年月日	
												令和 ・ ・		令和 ・ ・											
手当の審査のため、必要な公募等の確認を行うことに同意し、以下のとおり請求します。																									
（主たる生計者）	①（ふりがな）	氏名					②性別	男・女	③生年月日	昭和 ・ ・ 平成			⑤配偶者の有無	有・無	⑥届出の種類	☐ 出生 ☐ 転入 ☐ 受給者切替 ☐ 認定	◎支払希望金融機関（※）	銀行 信用金庫 労働金庫 農協							
	⑦住所	〒 - 東員町					父・母・その他（ ） 電話（ ）			1月1日時点の住所 （1～5月分は前年、6～12月分は本年）		☐ 東員町 ☐ 都・道 府・県 市・区 町・村			営業部 支店・支所 出張所										
	⑧職業	ア.被用者 イ.公務員（勤務先：ウ.被用者等でない者）					⑨請求者の加入している公的年金制度の種類別 ア.厚生年金保険 イ.国民年金 ウ.その他（ ） ※以下の共済組合の組合員である場合は括弧内に○を記入してください。 （ ）私立学校教職員共済 （ ）日本郵政共済 （ ）国家公務員共済 （ ）地方公務員等共済											預金種別 普 通 支店コード		口座 名義人 (カナ)					
配偶者等	⑪（ふりがな）	氏名					⑫性別	男・女	⑬生年月日	昭和 ・ ・ 平成			⑮職業	ア.被用者 イ.公務員（勤務先：ウ.被用者等でない者）			◎マイナポータルにおいて公金受取口座をご登録いただく必要があります。	口座 番号							
	⑯住所 （⑦と異なる場合）	〒 -					1月1日時点の住所 （1～5月分は前年、6～12月分は本年）		☐ 東員町 ☐ 都・道 府・県 市・区 町・村			☐ 公金受取口座を利用する													
※ 請求者が外国籍の方の場合は、口座情報がわかるもの（通帳やキャッシュカード等）の写しの添付が必要です。																									
⑰ 児童	（年度末の年齢が18歳までの児童）	（ふりがな）	氏名	続柄	生年月日	監護の有無	生計関係	同居・別居の別	海外留学をしている場合の出国年月	住所 （別居の場合）	※児童との関係 該当する場合に○印	※第3子以降の場合に○印	※3歳未満の場合に○印	※左記以外の場合に○印	※手当月額										
					平成 ・ ・	有 ・ 無	同一・維持	同 ・ 別	令和 年 月	※監護している児童と住所が異なる場合は、「別居監護申立書」を併せてご提出ください。	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母	(月額30,000円)	(月額15,000円)	(月額10,000円)	円										
					平成 ・ ・	有 ・ 無	同一・維持	同 ・ 別	令和 年 月		・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母	(月額30,000円)	(月額15,000円)	(月額10,000円)	円										
					平成 ・ ・	有 ・ 無	同一・維持	同 ・ 別	令和 年 月		・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母	(月額30,000円)	(月額15,000円)	(月額10,000円)	円										
					平成 ・ ・	有 ・ 無	同一・維持	同 ・ 別	令和 年 月		・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母	(月額30,000円)	(月額15,000円)	(月額10,000円)	円										
⑱ 児童の兄弟等	19歳から22歳までの児童	（ふりがな）	氏名	続柄	生年月日	監護相当の有無	生計費負担の有無	同居・別居の別	海外留学をしている場合の出国年月	[注意] ⑱「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合は、本請求書と併せて「監護相当・生計費の負担についての確認書」をご提出ください。 (ただし、⑱児童の兄弟等と⑰児童の合計人数が3人以上の場合に限る。)					※算定対象の場合に○印										
					平成 ・ ・	有 ・ 無	有 ・ 無	同 ・ 別	令和 年 月																
					平成 ・ ・	有 ・ 無	有 ・ 無	同 ・ 別	令和 年 月																
来庁者	請求者	提示書類	個人番号確認			来庁者身元確認						添付書類	厚生年金		その他	【備考】	窓口対応者								
	請求者		配偶者	1点			2点以上			保険証※1	年金加入証明書※2														
	番号力		通知力	住民票	番号力	通知力	住民票	番号力	運免				旅券	身障手				在留力	保険証	年金手					
	配偶者																								
	他 代理人																								

◎ 裏面の注意をよく読んでから記入してください。 ※印の欄は、記入しないでください。字は、楷書（かいしょ）ではっきり書いてください。

注意

- 1 ①の欄は、請求者が個人である場合は氏名を、法人である場合は法人名及び代表者氏名を記入してください。
- 2 ④の欄は、請求者が個人である場合のみ12桁の個人番号を記入してください。
- 3 ⑦の欄は、請求者が個人である場合は住民票上の住所を、法人である場合は主たる事務所の所在地を記入してください。
また、請求者が個人であり、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村（特別区を含みます。以下同様です。）に住所を有していた場合は、当該住所を右欄に記入してください。
- 4 ⑨の欄は、⑪の欄に3歳に満たない児童がいる請求者に限り、請求の日における公的年金制度の加入の状況について、次により記入してください。
ア 加入している公的年金制度について、「ア」から「ウ」までのいずれか該当するものを○で囲んでください。「ウ」を○で囲んだ場合は、（ ）内にその年金の名称を記入してください。
イ 「ア」を○で囲んだ場合で、第四種被保険者又は高齢任意加入被保険者（これらの者が保険料を自ら全額負担している場合に限ります。）であるときは、当該欄の余白に「四種」又は「高任」と記入してください。
- 5 ②、③、④、⑤、⑧及び⑨の欄は、請求者が法人である場合は記入する必要はありません。
- 6 ⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯の欄は、2人以上で児童を養育（監護し、かつ、生計を同じくするか又は生計を維持することをいいます。以下同様です。）している場合に記入してください。
「配偶者等」とは、児童を養育をする配偶者、未成年後見人等をいいます。なお、配偶者には、児童を懐胎した当時婚姻の届出をしていないが、請求者と事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含みます。
⑯の欄は、配偶者等が他の市町村に住所を有する場合に住民票上の住所を記入してください。また、配偶者等が本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に⑯の欄と異なる市町村に住所を有していた場合は、当該住所を右欄に記入してください。
- 7 ⑦の欄は、請求者が養育をする18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 8 児童が海外に留学している場合は、⑪の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。
- 9 ⑪の「生計関係」の欄は、次によって記入してください。
ア 「同一」は、児童が請求者自身の子である場合や請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合で、請求者がその子と生計を同じくしているときに○で囲んでください。
イ 「維持」は、児童が請求者自身の子でない場合で、請求者がその子の生計を維持しているときに○で囲んでください。
- 10 この請求書には、次の書類を添えて提出してください。なお、当該書類により証明すべき事実を公簿等（マイナンバー制度による情報連携を含みます。）によって市町村長（特別区の区長を含みます。）が確認することができるときは、当該書類は省略することができます。
ア 児童又は児童の兄弟等が他の市町村に住所を有する場合は、その児童又は児童の兄弟等の住民票の写し又は住民票記載事項証明書であって、その児童又は児童の兄弟等が世帯主である場合にはその旨、その児童又は児童の兄弟等が世帯主でない場合には世帯主との続柄が記載されたもの
イ 児童が海外に留学している場合は、当該児童が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類
ウ 児童が請求者自身の子であり、請求者がその児童と別居している場合は、請求者のその児童に対する養育の状況を明らかにすることができる書類
エ 請求者が未成年後見人である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
オ 請求者が父母指定者である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
カ 児童が請求者自身の子でない場合は、父母とその児童との養育関係及び請求者とその児童との養育関係を明らかにすることができる書類（請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合を除く。）
キ 生計を同じくしない配偶者等と別居し、児童と同居している場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
ク 請求者に配偶者がある場合には、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村に住所を有していた場合は、請求者又は配偶者の前年（1月から5月までの月分については、前々年をいいます。）の所得の額についての市町村長の証明書
ケ ⑪の欄に3歳に満たない児童がいる請求者が被用者であるときは、当該事実を明らかにすることができる書類
コ ⑬の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合は、⑬の欄に記載した子に係る監護相当・生計費の負担についての確認書
サ ⑬の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合に、⑬の欄に記載した子が海外に留学している場合は、当該子が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類
- 11 ⑬の欄は、⑪の欄に記載する児童の兄弟等のうち、18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 12 ⑬の「監護相当の有無」の欄は、監護に相当する日常生活上の世話及び必要な保護をしている場合には、有を○で囲んでください。
- 13 ⑬の「生計費の負担の有無」の欄は、⑬の欄に記載した子が受給者の収入により子の日常生活の全部又は一部を営んでおり、かつ、これを欠くと通常の生活水準を維持することができない場合には、有を○で囲んでください。例えば同居であって子の学費や家賃・食費等の生計費の一部を親が負っている場合、別居であって親が学費や生計費の一部を仕送りしている場合等が該当します。
- 14 18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子が海外に留学している場合は、⑬の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。

備考

1. ⑦及び⑮の欄を除き、必要があるときは、所要の変更又は調整を加えることができる。
2. 受給資格者に周知することにより、注意事項を省略することができる。